

## 活動報告書

令和 6 年 2 月 22 日

岐阜市の未来を共に考えるワーキンググループ

# 目次

1 岐阜市の未来を共に考えるワーキンググループについて	P1
2 活動の概要	P2
3 活動を通しての感想（若手職員）	P3
4 活動を振り返って（ファシリテーター：岐阜大学 出村 嘉史教授）	P20
5 提案書	P21

## Ⅰ 岐阜市の未来を共に考えるワーキンググループについて

令和５年度の“岐阜市の未来を共に考えるワーキンググループ”は、政策立案能力の向上と若手職員が活躍する組織風土の醸成を目指し、「岐阜市（１６人）」「十六銀行（３人）」「岐阜大学（４人）」「トヨタオートモールクリエイト（１人）」の産学官連携体制により、２４人が４チームに分かれ、活動しました。

### ■メンバー 一覧

	氏名	所属
グループ①	平光 功太郎	保健衛生部 保健衛生政策課
	福井 絢子	ぎふ魅力づくり推進部 歴史博物館
	酒井 景祐	基盤整備部 道路維持課
	三輪 和輝	まちづくり推進部 住宅課
	浦 綾乃	岐阜大学
	坂井 香葉	十六銀行
グループ②	北川 了太	行政部 人事課
	野田 恵	市民生活部 市民課
	西尾 明泰	福祉部 障がい福祉課
	朝日 健介	上下水道事業部 上水道施設課
	松原 心春	岐阜大学
	石毛 祐人	トヨタオートモールクリエイト
グループ③	魚江 和矢	子ども未来部 子ども政策課
	島 沙織	経済部 農地整備課
	和田 暁子	薬科大学 教務厚生課
	原 侑輝	教育委員会 教育施設課
	澁谷 歌乃	岐阜大学
	三島 弥大	十六銀行
グループ④	伊藤 広大	都市建設部 公園整備課
	岩田 直也	市民病院 病院財務課
	國井 優騎	財政部 市民税課
	大橋 那奈子	環境部 産業廃棄物指導課
	佐藤 里帆	岐阜大学
	大東 加奈	カンダまちおこし

※ 令和５年４月２６日〔キックオフ〕時点

ファシリテーター：岐阜大学 出村嘉史 教授、篠田朝也 教授、川瀬真弓 助教

## 2 活動概要

活動回	活動内容
第 1 回 (R5.4.26) キックオフ	オリエンテーション / 令和 5 年度岐阜市当初予算について説明 / 岐阜大学 篠田教授による「政策形成研修」を受講
第 2 回 (R5.5.24)	岐阜大学 川瀬助教による「デザイン思考研修」を受講 グループワーク:グループで関心のある領域の把握と理想像について 取り組むテーマの大枠を決定
第 3 回 (R5.5.31)	岐阜大学 出村教授による財政状況や中心市街地での取り組み等を受講 ふるさと岐阜市活躍人財バンク 村山 聡江氏による講演 グループワーク:他の自治体の取り組み例を共有
第 4 回 (R5.6.7)	グループワーク:関係課による岐阜市の現状や課題、政策の方針等の説明
第 5 回 (R5.6.28)	グループワーク:関係課のヒアリングを踏まえ課題を抽出
第 6 回 (R5.7.5)	個別相談会
第 7 回 (R5.7.13) 中間発表	提案の方向性の発表 / 関係課からの質疑 / 岐阜大学の先生方からの講評
第 8 回 (R5.8.9)	(株)リノベリング アドバイザー 青木純氏による官民連携の取り組み等を受講 グループワーク:各ステークホルダーの役割整理、事業全体のスキーム図づくり
第 9 回 (R5.8.24)	個別相談会
第 10 回 (R5.9.7)	グループワーク:事業スキームの精査 事業をスタートさせるための最初の取り組み方策検討
第 11 回 (R5.9.19)	個別相談会
第 12 回 (R5.9.28)	個別相談会
第 13 回 (R5.10.17)	個別相談会 (プレゼンテーションリハーサル)
第 14 回 (R5.10.27) プレゼン	・グループ① みんなが快適な通勤環境の実現 ・グループ② 親子の集う新たな場所ニュープレイス ・グループ③ 子育て世代 30 代からの運動習慣 ・グループ④ 誰もが気軽に立ち寄ることができる居場所づくり
}	提案の予算化に向けて関係課のアドバイスを受けて内容を精査
活動報告会 (本日)	



(グループワークの様子)



(プレゼンの様子)

### 3 活動を通しての感想 (個人が特定できないよう、内容を一部変更しています)

#### Q1 グループでの役割や、取り組む中で貢献できたことを教えてください。

- ・私は情報収集を主に行いました。テーマのステークホルダーの関係や目標を整理する際に、早い段階で対象者を誰とするのかを絞り、統一することができたので良かったと思います。そのおかげで、根拠資料や事例などの情報収集を早い段階から余裕をもって行い、十分なデータを揃えることができました。家族とともに対象の候補として考えている施設に赴き、実際に利用者として利用し、問題点や求められていることが何なのか体験し意見として反映することができました。
  - ・公務員としての知識がないぶん、外部的、市民的な視点での意見が言えたと思う。
  - ・これまで従事してきた職務や、日常生活での経験を活かすことができたと思います。
  - ・チームでの仕事全てに責任感をもって、何事も率先的に主体的に動く役割であったと感じます。チーム内で煮詰まったり行き詰ったりしたときに、事務局担当者にアドバイスを求めて動いたことが、結果的にチームに最も貢献できたことと感じます。事務局との積極的なコミュニケーションを心掛けたことにより、関係課を巻き込んだ事業提案に繋がったと感じます。
  - ・グループの中で他のメンバーの方と比べるとあまり仕事は少なかったと思うが、自分の意見を言ったり、大学生目線の意見を発言することができたと思う。  
他の地域の事例をたくさん調べて紹介することができた。
  - ・情報収集や資料作成、提案する事業に関係する専門家の方への聞き取りを行なった。
  - ・アイデア出し
  - ・庁内での調整に直接立ち会ったりするのは大変でしたが、当日に意見をまとめることや、方向性の検討には少しばかりですが力になれたかなと思います。
  - ・サブに回り、調整作業を行った。
  - ・政策立案にあたり、需要の有無を指摘するなど。
  - ・グループ内での意見の調整や書記的な役割を担っていました。
  - ・調べごと・スライド作成
  - ・グループでの話し合いの潤滑油になるよう努めた
  - ・取りまとめ役、メンバーや外部との調整、発表資料の作成
  - ・グループでの役割  
…アイデアマン
- 取り組む中で貢献したこと
- …主に中間発表や当日の発表で用いる資料作りに貢献した。発表資料を作る際には、数字やデータ等を用い、根拠を明確に示しながら作成した。
- また、学生ならではの視点から、根拠を示しながら意見を言い、貢献した。
- ・各課への聞き取りや、グループ内の調整。
  - ・全体への暫定資料説明、ネクストアクションの確認・割り振り、市長プレゼン、資料デザイン、カウンターパートとのやり取りなど、多岐にわたるタスクに取り組み、グループへの貢献や自己成長につ

なげることができた。

- ・グループワークの中で議論が発散しすぎることがあったので、グループメンバーの意見を取りまとめて収束できるように努めた。

グループワークで出た意見や課題等をまとめた概要を作成し、グループ内に共有した。また、プレゼンの原稿や質疑応答集を作成した。

- ・関係部署や団体に話を聞きに行く際、事前に質問を考えたり、聞いてきた内容をまとめてメンバーに共有した。

予算作成では、関係業者との窓口になり、委託内容の調整や見積依頼を行った。

- ・多くの意見を出し、グループ内の話し合いに貢献した。

発表資料の作成や発表及び質疑応答を積極的に行った。

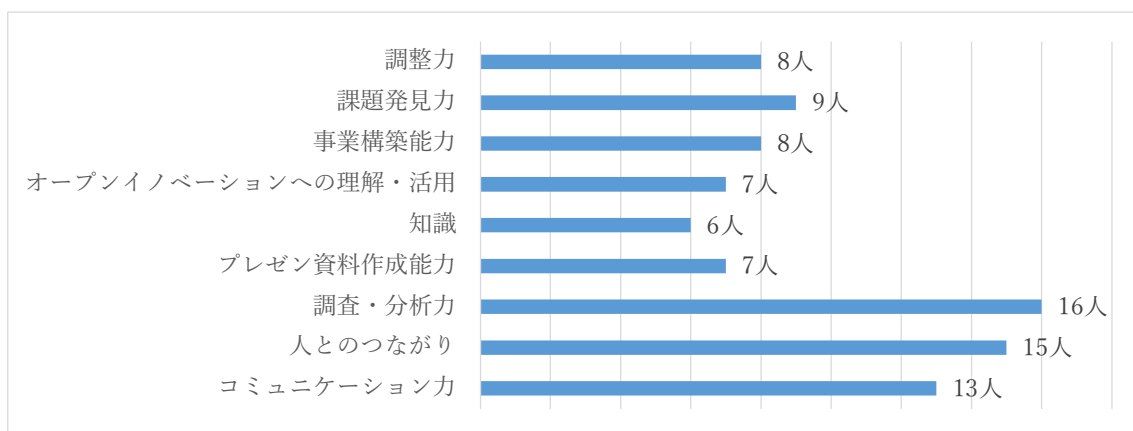
- ・岐阜市職員ではなく、企業の社員としての提案ができた。

- ・中々意見を出すことはできませんでしたが、出してくださった意見をまとめたり、共通点を探したりすることはできたと思います。

- ・中間発表や市長プレゼン用のパワポは、4 グループの市職員のなかで比較的、時間の調整が利く私が大半、作成しました。また、ミーティングなどのスケジュール調整も担いました。

## Q2 ワーキンググループに参加して、自身を向上させる上で役立つと思うものはありましたか？

(複数回答可)



## Q3 そのように思う理由を教えてください。

- ・課題発見において、自分では見つけたと思って、「なぜ？」を突き詰めていくとまだまだ深堀ができて、その先に真の解決策があるということを、身をもって知ることができた。また、本事業に積極的な姿勢で取り組むことで、教授方や外部のカウンターパートとの思わぬ人脈形成につながり、とても有意義な事業だと感じた。
- ・自身の生活課題から岐阜市の理想像を描き、最終的に岐阜市の未来をより良くする事業提案を、知らない者どうしのチームで考えるという、今まで経験したこともない仕事に当初は躓いてばかりでしたが、ファシリテーターの岐阜大学の先生方から与えられる課題をひとつひとつクリアしつつ、

3歩進んでは2歩下がるように進んでいく中で、調査力・分析力・知識・課題発見力・事業構築力が磨かれ、プレゼン資料作成能力も向上したと感じます。

また、チームで話し合っただけで進めることや、総合政策課や関係課との連携も重要視して進めたことで、コミュニケーション力や調整力が向上したと感じます。

- ・ 日々の業務の中で、施策の立案、予算の準備及び実際の事業推進は基本的に1人で行っておりました。本グループワークのように複数のメンバーで協議し、施策を立案する経験がありませんでした。メンバーと上司と部下のようなトップダウンの関係ではなく対等な関係として協議し、ともに同じ目標に向かっていくことができたため、コミュニケーション力、調整力を向上させることができたと思います。
- ・ 普段の業務では関わらない予算資料の作成・構築に携わることができたため
- ・ 普段は話すことがない年齢や立場の人と関わり、たくさんグループワークができたから
- ・ 複数人で資料を作り上げるにあたり、資料の記述や伝える内容など、どうプレゼンすると良いかより学ぶことができた。また、これまで関わりがなかった分野の事業者さんのお話が聞けた。
- ・ 人と人として作るプロジェクトのため、コミュニケーション力であったり、つながりがある方が良い。また、ひとつの事業を作り上げるためには構築能力が身についたと思います。
- ・ 岐阜市の現状から課題を見つけることや、そもそもの公共事業のつくり方を身をもって体験することができた。市役所外の事業者との関係をより知ることができた。社会人の方との関わり方を学ぶことができた。
- ・ 【調査・分析力】自分たちが気になるトピックに関係してくる要素を様々な方面から調査する必要があったため。また、発表用資料に必要な情報に絞る必要があり、調べたデータに対して、正しく分析をして自分たちの意図が伝わるようにしていった。  
【課題発見力】自分たちの身の回りでの困りごとに関して議論し、そこから社会での問題と照らし合わせながら課題の本質について考えたため。  
【オープンイノベーションへの理解・活用】様々な立場の方の意見を聞くことで、自分では気づくことができない視点を知ることができたため。  
【コミュニケーション力】社会人の方に向けて意見を述べたり、一緒に考えたりする機会が初めてだったが、臆せず意見できるようになったため。
- ・ アイデアを出せるよう努力した。その過程でグループでのコミュニケーションをとった。
- ・ 普段関わりのない人と一緒に仕事ができたため。
- ・ どんな取り組みにおいても個人の考えだけでは進まないため。
- ・ どう考えるかという考え方においてとても勉強になった。
- ・ 同じようなことで悩んでいる他県・他市町村の計画を調べる機会が多々あり勉強になりました。
- ・ プレゼン資料の作成能力⇒今回初めてパワーポイントを使用して発表資料を作成しました。事業提案までのフレームなど今後の参考になりました。  
人とのつながり⇒今回の活動を通して、初めて出会った人も、以前から知り合いだった人もより深く話をすることができました。今回の出会いを大切に、今後の業務に生かしたいと思います。
- ・ 岐阜市の子育てにおける問題について見つける際に、現状を知るために実際に現地へ訪れ、各

児童館や子育て支援に関連した事業を行っている会社などに訪問し、表面上でなく本当の問題はなにかをチームで見つけ出すことが出来たため。また、発表資料作りを主に担当しており、数値や根拠を示しながら、現状・問題・理想について作成したため。

- ・ 庁内庁外にかかわらず、普段かかわりのない人と接することにより、いろいろな繋がりができた。
- ・ 現状と理想とのギャップの差を埋めることは政策立案だけに関わらず、自身の業務の事務の効率化・改善にも繋がることのできるため。
- ・ 普段の業務では関わりのない分野だったが、調べる中でその分野の現状や課題が見え、理解が深まった。

グループメンバーや関係部署の方とのやり取りを通じ、調整力やコミュニケーション力の大切さを実感した。

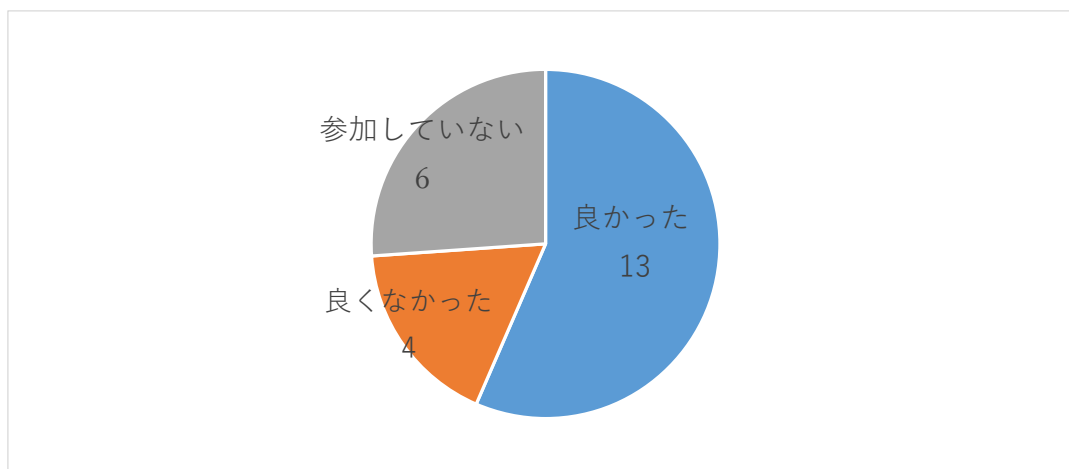
- ・ 普段の業務では関わることもない方々と関わる事が出来て実りある活動になったから。
- ・ 実際にまちの人に意見を聞きに行ったりなど、普段できないような経験ができた。また、市の職員の方や大学生とのワークだったので、異なる意見をもっており視点が面白かった。
- ・ 社外の方とグループになって、新しい施策を考えることは中々ないことなので、人とのつながりや、コミュニケーション力が必要だと思います。また、事前に課題をみつけ、調べてくることも必要で役立つ能力だと思います。
- ・ 市長プレゼンをするまでに、4 グループはテーマについて紆余曲折を経験しました。その度に、ネットで他の自治体や民間の事例や取り組みについて調べたことで、今後も役立つであろう知識を多く身につけることができました。

#### Q4 5/31 のグループワーク時に開催した、

村山 聡江 氏(ふるさと岐阜市活躍人財バンク登録者)による講話はいかがでしたか？

良かった・・・ 13 人

良くなかった・・・ 4 人





そのように思う理由を教えてください。

◆良かった理由

- ・モチベーショングラフを作成したことで、自分がどういったときにモチベーションが上がるかを確認することができました。また、他のメンバーと共有することでメンバーがどういった人かも知る機会となりました。
- ・参加型の講話で、自分のプロジェクト開始から終了までのモチベーションをシュミレーションしたことにより今回の活動の心構えができた。
- ・普段関わらない分野の方のお話を聞けてよかった。
- ・起業した人の考え方に触れることが出来たから。
- ・施策を進めるにあたり、どのようなモチベーションで挑戦するのか参考になりました。
- ・市民が活躍しやすいように、応援するシステムがとてもよいと感じた。
- ・施策を進めるにあたり、どのようなモチベーションで挑戦するのか参考になりました。
- ・なかなかお話を聞ける機会がないのと、自発的にはそうした場にあまり行かないため。
- ・モチベーショングラフの作成がよかったと思います。
- ・自身のモチベーションについて再思考することができたため
- ・普段は聞けないお話であり、良い時間になったと思います。
- ・村山さんの話を聞いて、やりたいと思ったことに挑戦する姿勢が本当に素敵だなと思いました。

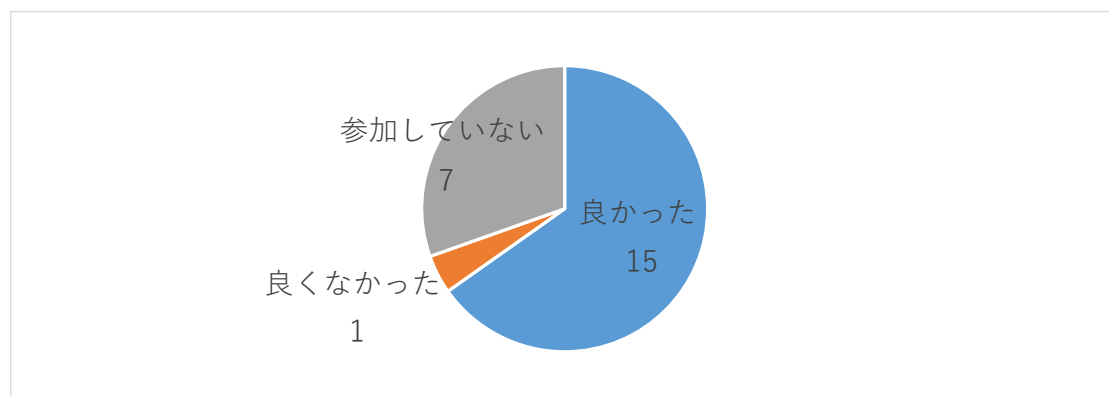
◆良くなかった理由

- ・講話が良くなかったというよりは、グループワークの時間や回数が限られているので、せっかく集まっているならグループワークに時間を割く方がよいのではないかと思った。
- ・持ち帰るべきものをつかみきれなかった。

Q5 8/9 のグループワーク時に開催した、青木 純 氏による講話はいかがでしたか？

良かった・・・ 15 人

良くなかった・・・ 1 人



## そのように思う理由を教えてください。

### ◆良かった理由

- ・我々が検討していることを、実際の社会で実施し実現・拡大されていた。その事例の概要や、苦労した点・工夫した点がとても参考になった。
- ・「課題はコミュニケーションで解決する」に大変感銘を受けました。  
行政の仕事はどうしても根拠にもたれて業務にあたる人が多いので、今まで課題解決の際は法解釈ばかり考えてきましたが、もっと根本的に課題を取り巻く人々をちゃんと見て考えてみたら、より良くなる課題解決方法があるのではないかと大きな学びになりました。  
青木さんが行ったまちなかりビングの事業も大変興味深く、面白く、岐阜市の職員としてまちづくりを考える勉強になりました。  
また機会があったらお話を聞きたいです。
- ・官民の繋がりや、社会をより良くするための講話がよかった。
- ・行政の人には「どうやったらできるかを聞く」といいよと話されていたのをよく覚えています。自分自身もできない理由、やらない理由を考えがちなので、事業提案する際にとっても参考になりました。
- ・民間活力がどのような流れで活かされていくのかを追っていったこと
- ・民間企業、行政の取り組み方や課題発見に違いがあることを認識できた。
- ・まちづくりにあたり官民連携を行っている取り組みについて学ぶことができたので良かったです。  
また民間目線での視点で何がどのようにもとめられているのかイメージをつかむことができたので良かったです。さらには民間側の青木さんがまちづくりを官と連携して行うことの「メリット」をもっとよく知りたいと思いました。私自身、過去に民間の企業で働いておりました。本来、民間企業は利益を最優先するものと考えておりました。講話の中で、青木さんは自分自身の利益のためではなく、他の人々のため、他者のために尽力しておられるように感じました。また、まちづくりのために様々なことに「とりあえずやってみる」との心意気で体当たりチャレンジしておりました。只のボランティアで賄える範囲内以上のことをやられています。事業を進めるにあたり、これが自分のメリットになるのか？これでお金が稼ぐことができるのか？お金はどこからでてくるのか？そのモチベーションの維持が可能である理由及び真意をさらに知りたいと感じました。今回の青木さんの講話の中でどういった目標をもって頑張るかは理解できました。青木さん自身への「メリット」は何か？お金が欲しいのか？名声が欲しいのか？それらをもし今後講話に参加する機会がありましたら是非お聞きしたいと思いました。
- ・なかなかお話を聞ける機会がないのと、自発的にはそうした場に行かないため。
- ・行政でない人の働きかけで新しい形のイベントや空間が作られていることが興味深いし、素晴らしいと思った。
- ・自分たちの政策テーマと類似しているところがあり、とても参考になったから。  
話の起承転結がはっきりしており、話し方に学びがあったから。
- ・他の市町の事例を知ることによって、自分の視野も広がり参考になった。

- ・ 難しい点もありましたが、普段は学べないことなので、良い機会になりました。
- ・ 青木さんのお話のなかで特に印象に残っているのは、イベントを開催したときに、「そのイベントに対する不満は全部僕に言ってください」と自らが全てを背負う姿勢です。より良い街づくりをしたいと願っても、本気で覚悟をもって、これだけ熱心に課題に向き合える人はなかなかいないと思います。これまでに多くの苦労はあったと思いますが、ユーモアを持って、充実した楽しい毎日を送っているような印象を持って、非常に羨ましいなと思いました。
- ・ 業務の都合で出席できなかったが、普段の業務で関わることのない方の講話を聴けることは自分自身の視野が広がると思うので参加したかった。
- ・ 東京のリノベリングの話、引きこまれました。

#### ◆ 良くなかった理由

- ・ 講話が良くなかったというよりは、グループワークの時間や回数が限られているので、せっかく集まっているならグループワークに時間を割く方がよいのではないかと思った。

#### Q6 ワーキンググループに参加して、良かったと思うことはありますか？

- ・ 課題解決に向けた政策立案の手法を学びながら実践できたことは、貴重な経験であり考え方の幅が広がった。
- ・ いろんな立場からの意見を話し合えたこと、また人との繋がりが新たにできたことは財産になると感じた
- ・ 通常業務では関わらない他部署の業務・目標等について知ることができ、今後の業務に生かせること
- ・ 岐阜市全体の行政や方向性を学べたこと、課題に基づく政策立案を一から経験できたことがとても良かったです。今まで目の前の業務だけに集中してばかりで、いかに狭い視野で仕事をしていたか痛感しました。このワーキンググループに参加したことで、視野が広がり、物事を広い視点から論理的に考えられるようになり、岐阜市の行政の仕事に誇りと楽しみを感じられるようになりました。
- ・ 私は部内でしか人とのつながりを持てていなかったのですが、ワーキンググループに参加したことで、部署の垣根を越えてつながりを持つことができたのは本当に良かったです。
- ・ グループワークの練習になったこと、色んな人と関わったこと、施策の提案に関わったこと
- ・ 自分がこれまで関わってこなかった分野の事業について学べたことと、人との繋がりが増えたこと。
- ・ 公共事業ができる過程や課題を身をもって体感することができた。自分たちは良いと思って、住民との需要とマッチさせることがいかに難しいかよく分かった。コミュニケーション能力があがった。市役所の人々の仕事を知ることができて良かった。
- ・ 社会人の方々が普段の業務がある中で作業を進めていくために、時間管理をしっかりと行っているのだとわかり、働く上で計画性が重要であるということを理解することができた。また、グループの一員として実際の事業立案を経験することができ、実現性や関係課との調整といった課題を

解決するまでに、長い時間や労力を要するということを実感できた。立案する上で、持続性があるかという視点で考える必要があるとわかり、次につなげるためにはどのような仕組みにする必要があるのかを考えることができた。

- ・コミュニケーション能力の向上、岐阜市の現状を知れた。
- ・繋がりや自身を向上させるための能力が身についた。
- ・人とのつながりができた。
- ・様々な人と関わることでより多くの考えに触れることができた。
- ・様々な立場の違うメンバー同士でお互いの意見を尊重しあいながら議論することの大切さを学べたので良かったと思います。自分の意見を押し通す、他のメンバーの意見を否定する、逆に他のメンバーの意見に迎合し自分の意見を言わないなどそういったこともなく、うまくリーダーが各メンバーの意見を調停し、議論をリードしていました。私自身はそのような経験が少ないため、リーダーや他メンバーの議論に対する姿勢、振る舞いについて参考として多くを学ぶことができたので良かったと思います。

このような場は今後の業務の中で非常に役に立つ貴重な場だと思います。今後、人によっては付表などの予算資料を作る経験もないまま上の立場に上がっていくこともあると思います。そうならないため若手はこのような場にぜひ参加し、積極的に揉まれて失敗も経験し、自分の経験を増やすチャンスだと思いました。ぜひ今後も続けてほしいです。

- ・事業化ならず残念でしたが、発足から事業化までの進め方の理解が進んだこと。
- ・他課の職員とチームを組んで活動するということは今までなかったので、良い経験になりました。また、一つのものを作り上げたという達成感と今後の自信につながりました。
- ・今回、当プロジェクトに参加し、課題を解決する際に大切なことや、事業に取り組む姿勢などたくさんのことを学べて良かった。
- ・人とのつながり。
- ・普段関わりのない部署の人とも交流ができた。
- ・知らない人とつながることが出来てよかった。
- ・バックグラウンドが違う方たちと意見交換ができ、今後も繋がっていけるような人たちに出会えた。
- ・他の業種の方と交流がとれたり、グループワークを通して課題を発見から解決までどんな視点が必要となるのか学ぶことができました。
- ・課題発見において、自分では見つけたと思って、「なぜ？」を突き詰めていくとまだまだ深堀ができ、その先に真の解決策があるということ、身をもって知ることができた。また、本事業に積極的な姿勢で取り組むことで、教授方や外部のカウンターパートとの思わぬ人脈形成につながる成長が得られたこと。

#### **Q7 ワーキンググループに参加して、不満に思ったこと／改善すべきと思うことはありますか？**

- ・岐阜市職員同士は teams で繋がれるが、それ以外は繋がることのできないため、情報の共有が難しかった。仕事や授業の関係でみんなの時間がなかなか合わなかったこと。

- ・ワーキンググループや相談会外での調査・調整・打ち合わせ・資料作成などが多く、業務時間外で時間を取られ、本来の業務に支障がでたこと。出先なので本庁への移動時間もかかりました。
- ・teams で資料が共有できると良いと思いました。
- ・資料共有がメールでのやりとりとなり、円滑な作業が難しかった。
- ・もう少し上手に時間調整をして、いろいろ参加すべきでした。
- ・通常業務を圧迫する場面が多々あった。  
年間のスケジュール感やスピード感がわかりづらかった。もしくはメンバーに十分伝わっていなかった。
- ・政策立案にあたってのサポートが足りない。
- ・私は所属部局内や人事課においてワーキンググループが「単なる研修」と考えられている現状を不満に思います。全ての参加メンバーも同様かと思いますが、本来の自分の仕事の業務とワーキンググループの作業が重なり、時間に追われることが多々ありました。私は 4 月～6 月は本来の自分の仕事として多くの起案作業、契約依頼及び発注作業がありました。4 月～6 月のキックオフ会議、グループワーク会議では次回への課題として他都市の事例の調査、資料作成を行いました。本来の自分の仕事と両立させることは不可能で大幅な超過勤務が発生してしまいました。10 月～12 月は本来の自分の仕事である予算準備に奔走していたため、ワーキンググループでの作業にあまり積極的に参加することができず、他メンバーの負担を大きくしてしまい迷惑をかけてしまいました。そのほかにグループワーク会議以外の時間で自分たちで集まり協議を行ったり、複数の関係部署との協議・根回し、外部パートナーとなる関係民間企業への協力の依頼などを多く行いました。こういった作業は本グループワークを単なる研修ではなく、施策の実現のために必ず必要なものであると認識しておりますが、本来の自分の仕事と両立することは不可能でした。私の所属部局内では、ワーキンググループを「単なる研修」と位置付けておりました。本ワーキンググループにより、超勤が発生することは認められておりませんでした。人事課においても同様の認識のようです。また、ワーキンググループでどれだけ頑張ったとしても人事評価の対象にもできないとのことでした。私は所属部局内や人事課においてワーキンググループが「単なる研修」と考えられている現状を不満に思います。庁内においてワーキンググループを立派な「業務」として認めていただき、また、人事評価の対象としていただきたいと思います。今年度の若手プロジェクトは実際に施策に結びつける実績ができたかと思います。その実績は「業務」により発生した立派な「成果」だと思っています。次年度以降、今後の若手プロジェクトへ参加する職員のため、「業務」として認められることを願います。
- ・市長報告後の進め方は少し改善されるといいなと感じた。
- ・参加者の中には出先機関勤務である者もいるため、タブレット端末の貸し出しやPCを使わない日においては使わないことを教えていただくなど配慮していただけるとよいと思う。(かなり負担であった)  
付表 3 作成から担当課ヒアまでの日程があまりにも短すぎるように感じた。
- ・市長へのプレゼンから財政課へのヒアリングまでの期間がとても短いと感じました。

発表の段階で、担当課とある程度話はしていたものの、具体的に詳細まで詰めているわけではないので、関係先(担当課、業者など)と協議する時間が短く、付表3、アウトカムシートの作成にとても苦労しました。

今後は発表段階で付表3が作成できるポイントを重視して発表資料を作成したり、ワーキンググループの開始時期早めて、担当課の協議時間を確保するなどの工夫が必要だと感じました。

また、チームにはファシリテーターとして担当課の職員にも入ってもらい、実際の提案してほしいテーマなどを出してもらった方が、よりよい事業提案になったのではないかと思います。

- ・ 自分も他市で若者議会(10代20代の市民がメンバー)の事務局側として、若手 PT と同程度のスキームで1年間参加していたことがある。その時に感じたのは、メンバーの熱意の差(自薦か他薦(高校大学からの推薦)というのと、事業化の難しさだった。メンバーの熱意の差は個人の力量もあるが、事業の内容に大きく直結するので、可能な限り自薦が望ましいと思う。市職員においても、部局が多岐にわたるべきではあるが、自薦枠を増やす等した方がよいのでは。また、若手 PT においても早い段階で事業課を入れることをしてみえたが、最初の段階では提案が不明瞭だったので各グループともそれがあまり意味を成していなかった。

テーマ設定の仕方から検討が必要な気もする。自分がやっていたときは、各課に「若者に解決してもらいたい課題」みたいな照会回答をかけて、そこからテーマを決めていた。若者としてもある程度テーマがあるし、担当課も自分たちの課題を解決してもらっているので協力がしやすい。

- ・ 予算対応がとても大変だったため、市長発表後すぐに関係課も招集したワーキンググループの場を開く等、正式な場で集まって話し合い、スケジュールも共有できる機会があったらと思います。(関係課もメンバーもどちらが主体的となってどう動いていいのか混乱が生じないような、結局やる気のある人だけが動くことにならないような仕組みにしていけたらと思います)

- ・ 市長プレゼンの前の早い段階から、提案先の部署と綿密に意見交換をし、実施可能な条件を随時把握しながら検討を進められるとよかった。

タスクが1人に集中しないようリーダーを設定しない仕様となっていたが、設定しただけだと任意でリーダーが設置されるだけになることもある(→タスク集中)ため、タスク集中が起こらないようなチームマネジメント方法(1班での実施例:毎回最後にタスク確認し平等に割り振る、資料のとりまとめ/め切進捗確認などの事務担当者を期間ごとに設定 など)の案内があるとより良くなると思った。

- ・ 長期にわたる活動の中で想像以上の負荷となった。所属課に理解していただき担当業務を一時的に見直してもらうなど配慮が必要だと感じた。

通常のスケジュールに組み込まれたグループワークだけでなく個別のグループワークも多くあり、できる限り参加したが業務の都合で参加することができないことがあった。プレゼン資料の作成などで他のメンバーの負担が大きくなり、個人の作業量に差が出て迷惑をかけてしまったため、作業量が少しでも平準化されるように通常のスケジュールに資料作成などのグループワークの枠を設けてほしかった。メンバーも不満に思っているだろうし、参加できない本人も申し訳ない気持ちで自己嫌悪に陥ります。

- ・ 市役所メンバーは Teams でやり取りできるのでよいが、庁外のメンバーとはラインでのやり取り

となり、情報共有に苦勞した（特にプレゼン資料や Excel などのデータ共有）。

時間がないときは市役所メンバーだけで話を進めてしまい、庁外メンバーを置いてきぼりにしているようで心配になった。

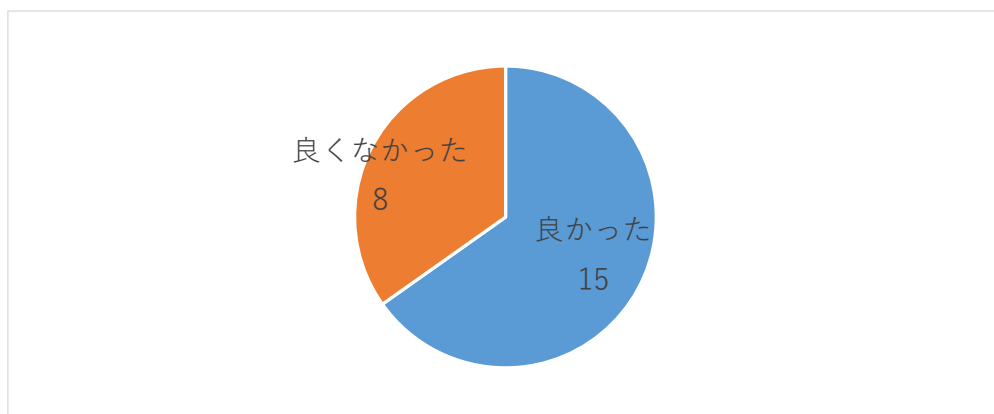
本来の業務が優先なのは当然ではあるが、職場の理解があるのか疑問を感じる場面があった。特にグループ各自の活動について、職場に対し配慮を呼び掛けてほしい。

- ・グループ内でワーキンググループ活動の貢献度が異なっていた。  
多忙な部署からの参加もあったので、参加者の所属課に本務の削減を働きかけるなど、業務量の調整をしてもらいたいと思った。
  - ・チームスが、職員の方しか入れず同時編集やコミュニケーションの取り方が難しかった。外部も一緒に参加できるツールがあるといい。
  - ・岐阜市職員の方との資料共有がスムーズにできなかった点。
  - ・ワーキンググループのメンバーを選出する段階で、年間スケジュールに記載のグループワークや相談会の全てに基本的には参加できるメンバーを選出したほうが良いと思います。緊急な業務やトラブルで急遽参加できないのはやむを得ないですが、所属長にもある程度、配慮をしてもらうよう依頼したほうが良いと思います。
- 4 グループはワーキンググループや相談会以外でも、グループで集まろうしても、毎回決まったメンバーしか集まらず、話し合いが進まないことが多々ありました。また、十六銀行の職員や岐阜大学の学生など、市職員以外とも Teams 上でビデオ通話ができるようになったら、話し合いもスムーズにできたのではないかと思います。

**Q8 今年度の研修から、翌年度に切れ目なくスモールスタートできるよう、  
予算措置及び予算化のための付表3作成をプログラムに取り入れましたが、  
いかがでしたか？**

良かった・・・ 15人

良くなかった・・・ 8人



## そのように思う理由を教えてください

### ◆良かった理由

- ・ 実際にくらかかるとかを考えないといけなため、提案した施策がより現実的になったから
  - ・ せっかく半年間、時間をかけて考えた事業案が白紙になるよりは損が出たとしても試してみることが出来るのはとても良いと感じました。
  - ・ 実現性についてより深く考えながら進めることが出来たため。
  - ・ 具体的なプランが見えてきて臨場感があつた。
  - ・ ひとつの事業を作り上げる経験ができた。
  - ・ 付表3を実際に作成する試みは大変良かったと思います。実際の予算化の為の準備と同じように付表3・アウトカムを作成をすることにより、ワーキンググループ参加者も担当部局も「本気で頑張らないといけない」という気持ちが生まれたので皆真剣に作業を行えたと思います。
  - ・ 丸投げにならないという点においては良かったのではと思う。ただ事業課は自分たちの仕事を増やされたくないという思いが強く、そこまで作らなくては行けないのかというもので作成を依頼されている。
  - ・ 予算が設定されていることで、初年度何をやるのかというところについて具体的に考えられた。
  - ・ 市長へのプレゼンから財政課へのヒアリングまでの期間がとても短いことが改善できれば、事業化できるという達成感につながると思います。
  - ・ 事業がより現実的ものとなるため良いと思った。
  - ・ 課題事項への対応、事業実現のための資料作成、他部署上席の方々への説明、全てが良い経験となり、とても学びが多かったからです。
- ただ、大変タイトなスケジュールで、具体的な事業の実現方法と実施方法を提案し、関係課と擦り合わせて調整していくのは、とてもハードワークでした。
- 通常業務と並行して行うため、資料作成等の事務作業は全て時間外に行うなど負担は大きく、絶対事業実現するという強い気持ちがないと乗り切れませんでした。
- ・ 事業化の可能性が上がることで、「事業化するんだ、中途半端ではいけない」という意識をもって検討に向かうことができた。
  - ・ 理想論で終わらず、具体的な実施まで見据えた事業計画、予算作成の機会は大切だと思う。
- ただし、スケジュールがとてもタイトで、本務そっちのけでやらないと間に合わないような状態であった。見積先の委託業者にも迷惑をかけた。
- 関係部署との詳細を詰める時間、それを踏まえた委託業者との調整、見積の取り直しなど、プレゼン後の時間を考慮したスケジュールにしてほしい。
- ・ 今後の事業化されるようにという強い意志を持って取り組むことができた。
  - ・ 実際の事業化へ繋げるためには必要なことであり、予算の面まで考えていくことが出来たからです。



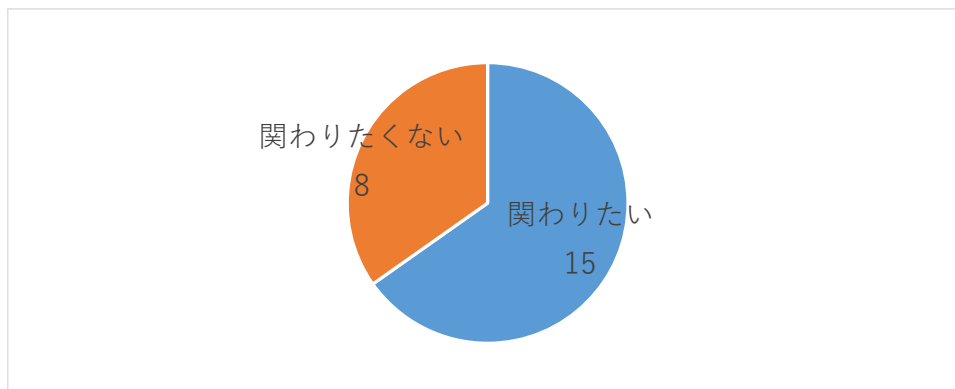
◆良くなかった理由

- ・ワーキンググループや相談会外での調査・調整・打ち合わせ・資料作成などが多く、業務時間内外で時間を取られ、本来の業務に支障がでたこと。出先なので本庁への移動時間もかかったこと。
- ・年間のスケジュール感やスピード感がわかりずらかったこと、もしくはメンバーに十分伝わっていなかったことで、今回に限っては良くなかったが、改善があれば、実効性があり良いと思う。
- ・事業課の協力が不可欠となるが通常業務に加えての作業となり時間的猶予がないため。
- ・プログラム自体には特に思うことはないが、スケジュール的な点においてはよくなかった
- ・プログラムに取り入れたといいつつ、プレゼンからあまり時間もないまま、付表3作成となるので、グループワークに付表3作成まで含めるなどやり方はもう少し検討したほうが良いと思った。  
また、グループによっては付表3作成（査定）まで到達していないというのもよくないと思う。査定までやって切られるべき。
- ・予算要求に向けて附表を作成することは勉強になった。
- ・付表3の作成は市長発表から1ヶ月しかないため、若手職員には困難だと感じた。  
資料作成も時間が確保されておらず、隙間時間で作成できるような内容ではないと感じた。
- ・付表3やアウトカムシートを作成できたのは、非常に良い経験でした。しかし、プレゼンまでは若手職員である私たちのすること、そのプレゼンを踏まえて、事業課が本当にやりたいと思うのであれば、予算化に向けてもう少し協力的な姿勢を示してほしかったです。プレゼン後、私たちのグループは何度も足を運び、先方にも時間を取っていただきましたが、提案内容についての講評はいただきましたが、具体的な予算の相場などについてはアドバイス等いただいていません。付表3・アウトカムシートはグループで作成するとしても、その内容については事業課にもう少し携わってほしかったです。

**Q9 グループで提案した事業が次年度に実施される場合に、次年度以降も関わりたいですか？**

関わりたい・・・ 15人

関わりたくない・・・ 8人



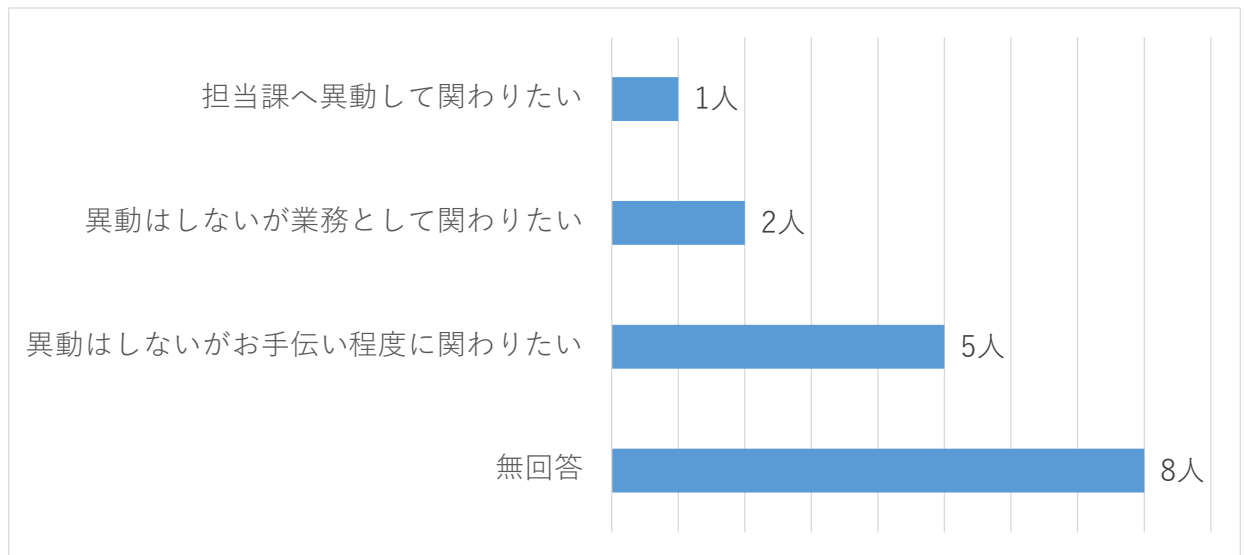
### 市職員にお聞きます。どのような関わり方をしたいですか？

担当課へ異動して関わりたい・・・ 1人

異動はしないが、業務として関わりたい・・・ 2人

異動はしないが、お手伝い程度に関わりたい・・・ 5人

無回答・・・ 8人



### 感想

- ・大変だったがとても自分のためになったと感じた。外部に連絡をとったり、市の政策を考えたりするなど、普段ではできないことが経験できた。また、自分のグループはとても話し合いがしやすい雰囲気、どういうふうになればみんなが意見が言いやすいかであったり、優しい雰囲気にできるかであったりを学ぶことができた。ただ、あまり時間があわなくて、市職員の方たちが別で時間をとって行なってくれていた話し合いに参加できなかったため、申し訳なさを感じた。もう少し積極的に参加すればよかったと思う。ありがとうございました。
  - ・勉強になりました。ありがとうございます。
  - ・社会人の方との関わり方や市役所がどういう立場でどのような仕事をしているか学ぶことができました。チームのメンバーの方々は、知識が浅い私を心優しく受け入れてくれました。チームワークが良く、すごく居心地が良かったです。ワーキンググループに参加することができて良かったです。
  - ・今まで社会人の方々とグループワークをする機会がなかったため、最初はなかなか意見を積極的に出せなかったが、継続していく中で徐々に意見を出せるようになり、メンバーの方々の視点を吸収しながら考えていくことができた。
- グループでは、大学生としての視点を聞いてくださると同時に、意見に対して対等に議論していただき、お互いの意見を伝えあいながら進めていくことができ、非常に貴重な経験となった。
- 就職活動をしていく中で、公務員を目指していきたいと考えているため、この経験から学んだこと

を活かしながら、一つ一つの取り組みに向き合っていきたい。

- ・貴重な体験をありがとうございました。

- ・大変お世話になりました。

市職員としてなかなかできない経験ができたと思います。

可能であれば、今後も事業に関わる仕事や、官民を繋げられるような仕事をしたいですが、技術職で叶わなそうなのが残念です。

- ・普段の担当とは違った視点で、物事を考えたりできたので、とても良い経験となった。
- ・事業立案にあたっての政策課題に対する知識が全くない中でのグループワークであったため、取り組むべき課題が絞られていた方が良かったと感じた。

- ・私は若手プロジェクトに参加できて大変良い経験になったと思います。自分たちで調査・企画・立案を行い、実際に自分たちの足で対象者、関係者、関係部局及び民間企業へ出向き交渉・協議・お願いを行い、緻密な根拠作成・データ作成・予算資料の作成、市長への発表、関係部局長との協議、そして財政部長査定を迎えることができたのでとても良い経験になりました。やはり必要だなと思ったのが、対象者を誰にするか？を早い段階で決めることができたことと関係部局と早い段階から協議を行い協力を取り付けられたことです。いくら理想を膨らませてもそれが現実的なところに落とし込めないとただの机上の空論となってしまいます。大きな理想があったとしても、現状の岐阜市の状態と乖離しすぎていたら実現は難しいです。総合政策課さんや岐阜大学の先生方が仰っていたようにスモールスタートとして現実的な目線を常に意識して臨み、実現に近づくことができて良かったと思います。これらの学んだことをこれからの業務にも活用していきたいと思っています。

- ・全体的には大変勉強にもなり、自分にとっていい経験だったと思えるものでした。ただやはり事業課との関係値を作る中で、この若手 PT という事業の評価が、勝手に仕事を押し付けられるというニュアンスを持たれている感じがすごくします。個人的には若手に限らず様々な課の職員と一緒に何かを目指すという事業があってもいいのかなとも感じました。経験したことがある人が増えれば、もう少しこの事業の理解も得られやすいのかなと感じます。

- ・勉強になりました。参加させていただきありがとうございました。

担当課となる部署の計画へのすり合わせが難しかったです。

- ・今回ワーキンググループに参加することで、様々な経験をして、自分の成長につなげることができました。ありがとうございました。

- ・当プロジェクトを通し、本当に色々なことを学んだ。

特に印象に残っていることは、予算を考える際には、ランニングコストとして消費するのではなく、そのお金で事業を持続させる仕組みづくりの方に使うこと、事業を作成する際には利用者さんや各協力者さんへのインセンティブが重要であること、そして「なんでもあるはなんでもないと同じ」という言葉である。事業を考える際の大切な知識について沢山学ぶことができた。

また、同じグループの市役所の職員の方々が、非常に優しく、私を常にサポートして下さったため、楽しくプロジェクトに参加することが出来た。

本当に貴重な機会をありがとうございました。

- ・実際に事業化させることはハードル多く、難しいことも多いが、メンバーの向上には確実につながっていると思う。私も成長させていただきました。ありがとうございます。
- ・大変でしたが、本当に学びある貴重な機会をいただけたことに心から感謝しています。  
また、事務局の総合政策課の方が本当に親身になってアドバイスくださり、関係課との調整もいただいたことで、事業実現の一步前までくることができ、感謝しかありません。  
事務局のフォローが本当にとても良かったです、ありがとうございました。  
実際に経験したことで、このワーキンググループは、研修とは比にならない大きな学びと成長があるプロジェクト業務だと感じました。  
是非今後も、職員の能力向上と意識向上のために、前向きに仕事をする職員がもっとこのプロジェクトに携わってもらえたら、より良い岐阜市になると感じます。
- ・参加のきっかけは受動的なものでしたが、第1回に参加した時からその認識は変わり、「数年前より格段に良い環境になっている」という前向きな気持ちで研修に臨むことができました。  
教授らや事務局の方々が毎回親身になって相談に応じてくれ、なかなか課題が見つけれないときや方向がぶれそうなどとき、いつでも的確なアドバイスをもらえたことが、そのように取り組めた大きな理由です。私の班では事業化には至りませんでした、あらゆることを全力でやって得た結果にとっても大きな意味を感じており、自分自身がとても成長できた半年間でした。  
この事業によって、市職員→市役所→岐阜市という順によくなる可能性を秘めている  
と思いますので、今後もぜひ継続していきましょう。
- ・本事業を実施するにあたり、私たちの知らないところで、教授、事務局のみなさんにおいて、事前・最中にかなりの準備や調整をいただいたこととお察しします。そのすべての配慮に感謝いたします。ありがとうございました。  
今後とも、何かの機会でかかわることがありましたら、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
- ・幾度となく壁にぶつかり心が折れそうになることもあったが、政策立案のプロセスを学べたことは今後の業務でも大いに役に立つと思った。日々の業務の中でも現状と理想状態を意識することで、業務改善の取り組みなどに活かしていきたい。
- ・現在は政策立案をする部署ではないため、新しい事業を考えることは大変な部分もあったが、前向きな気持ちになり、いい経験になった。  
また、相談に行った関係団体の方々からは、若手職員の事業提案について理解や協力、応援のお言葉をいただいて有難かった。  
最初のテーマ決めをもっと丁寧にやりたかった。入り口が「自分が困っていること」であったが、市外在住者は生活に関する意見が出しづらく、テーマが偏ってしまったような気がする。「自分」に限らず、いろんな視点の人からみた課題さがしから入ったほうが、幅広いテーマを検討できたのではと思う。
- ・ワーキンググループ活動は自分にとって学びや発見が多くあり、楽しい活動だったと感じる。自分の業務がひっ迫していなければ、もっと出来ることがあったのではないかと考える。この経験を今後の業務に活用していきたいと思った。
- ・半年間、かなりの時間をかけて提案を考え、自分自身のプレゼン力やコミュニケーション力の向上

につながったと思う。またそれに加え、今後も一緒にまちづくりができる仲間ができたことがとても嬉しかった。

- ・ 普段の業務とは異なりましたが、たくさんの方と関わることができました。グループワークも思うように進まず、難しい点もありましたが良い経験になったと感じています。
- ・ ワーキンググループのメンバーの一員になれて本当に光栄でした。通常業務との両立で大変なことも多々ありましたが、それ以上に自分の成長につながったと思います。市長を含めた大勢の前でプレゼンする度胸や、パワポ資料作成能力、部署の垣根を越えた人とのつながり、その他にも多くのことを身につけたような気がして、ほんの少し自分に自信をもつことができました。

## 4 活動を振り返って（岐阜大学社会システム経営学環 出村 嘉史教授）

令和5年度の「岐阜市の未来を共に考えるワーキンググループ」研修、たいへんお疲れさまでした。修了した今、みなさんそれぞれに達成感があるのではないのでしょうか。とても長丁場のプログラムでしたので、記憶を呼び覚ますため、少し振り返ってみましょう。

冒頭には、篠田先生の政策形成研修がありました。NPGとは何か、覚えていますか？行政に市民や民間を巻き込んでいく昨今の傾向、New Public Governanceです。垣根を超えたパートナーシップの必要性が説かれました。この話は、一連のプログラムを終えた今なら、実感できる話ですね。これは後半の、可能な限り外へ出て、市井のパートナーをみつけ実状を知り、議論して、新しいフレームを描くプログラムへつながります。

中間発表までの5回のグループワークでは、自分たちの日々ストレスに感じていることから始め、でも直接そのストレスを解消することを禁じて、グループの多様な立場のメンバーが抱いたそれぞれの問題意識をまとめて解決したならば、どんな理想状態に至るのかを議論しました。ここは、焦る気持ちを抑えて、とことんやりましたね。実は、これは「バックキャスト」という考え方です。手に入れた未来が描けたならば、そこから逆算して、何を乗り越えればそこへ行けるか（これを施策にする）を考察するやり方です。普段はこの逆で、目の前の問題を直接解決することを積み上げれば、よき未来が来るであろうと信じて進む、フォーキャストというやり方になっているのではないのでしょうか。だからこそ、戸惑ったかもしれませんが、これを4つのグループは乗り越えたからこそ、最後の施策の提案がより高次のアウトプットになったと思います。

そこから最終プレゼンまでの後半は、いよいよ提案する政策・施策の構築とブラッシュアップです。次年度からでもスムーズに動き出すことができるよう、スモールスタートの予算組（画期的な200万円!）がちょうど構築できたこともあり、より実践的で能動的な動きになりました。行政と弾力的なパートナーシップを実践してきた民間の青木純さんに、事例を紹介していただいた後、外へ目を向け足で稼いで、それぞれの実状を掴みにいったと思います。熱量の高まる皆さん（疲労の色も時に見えました（笑））に失礼のないよう、こちらも真剣勝負で、より実効性と社会的意義のある提案になるよう意見を出し、また企画部も含めて講師陣でも臨機応変に、現場と並行して作戦会議を重ねました（知らなかったかもしれません（笑））。プレゼンの方法も、みなさんと随分議論しましたね。

もやもやして答えがなかなか見えそうで見えず、それでも問題を捉えて創造性のある解決策を得るには、この過程の中で粘り強く考えて一歩抜け出した別の次元に答えがあることを知っていることが大切です。自分の思い込みの殻を破ってチームのメンバーとともに達成したことは、その点で大きな強みになります。これからも、きっと様々な局面で、困難な壁に突き当たることはあるでしょうけれども、上手に他部門、他分野の立場の人と連携をして自ら奮い立って突破してくれることを願います！

## 5 提案書

提案1 みんなが快適な通勤環境の実現（グループ①）

提案2 親子の集う新たな場所ニュープレイス（グループ②）

提案3 子育て世代 30 代からの運動習慣（グループ③）

提案4 誰もが気軽に立ち寄ることができる居場所づくり（グループ④）

# 皆が快適な 通勤環境の実現

～自転車ツーキニストによる通勤改革～

2023年10月27日  
“若手” Project Team  
Group 1

## Group 1 Member

岐阜大学	社会システム経営学環	浦 彩乃
十六銀行	岐南支店	坂井 香葉
岐阜市	基盤整備部 道路維持課	酒井 景祐
岐阜市	保健衛生部 保健衛生政策課	平光 功太郎
岐阜市	ぎふ魅力づくり推進部 歴史博物館	福井 絢子
岐阜市	まちづくり推進部 住宅課	三輪 和輝

## AGENDA

1. 社会的背景

2. 理想状態と現状

3. 提案する施策

4. 事業効果

## AGENDA

1. 社会的背景

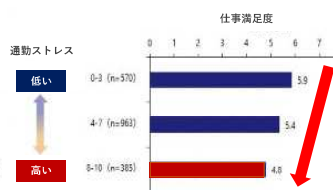
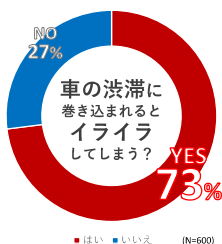
2. 理想状態と現状

3. 提案する施策

4. 事業効果

### 1. 渋滞へのストレス

- ・通勤している年齢層の約70%が渋滞にイライラ
- ・通勤ストレスが高くなるほど仕事満足度が低下



30代以下の34%は渋滞に巻き込まれてもイライラしない? 車の渋滞について男女600人に調査 | trend-research.jp

通勤ストレスがビジネスパーソンに及ぼす影響 | ユクヨクのMANA-Biz (bokujo-furniture.co.jp)

### 2. 問題点と解決策

#### 自動車利用の過多



通勤ラッシュの原因



健康／環境／経済的でない



出典：国土交通省中部地方整備局  
岐阜県道路交通連携推進協議会  
gifu-road-traffic.jp

自動車 ⇒ 自転車 への転換で  
諸問題の解決へつなげる



# AGENDA

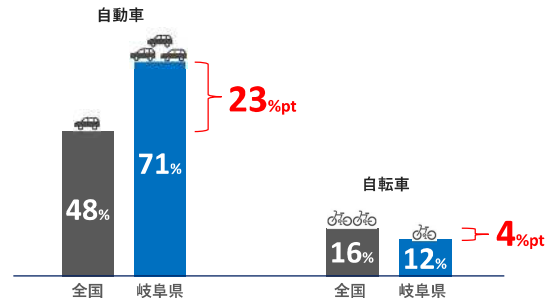
## 2. 理想状態と現状

る施策

効果

## 3. 理想状態と現状との比較

岐阜県の通勤・通学手段は  
自動車が多く、自転車が少ない



通勤・通学における交通手段利用率（岐阜県）

※岐阜県自転車活用推進計画参照

## 4. 向き合うべき課題

### これまでの施策

※第3次岐阜市総合交通戦略(抜粋)

- ① パーク&ライド、サイクル&ライド  
(バス停駐輪スペース整備、バスマップによる駐輪場案内 etc)
- ② レンタサイクル (Gifu-Ride)
- ③ 自転車専用道の整備



「自転車に乗りたい」  
と思える需要喚起策が必要

自転車通勤のイメージアップ・魅力発信

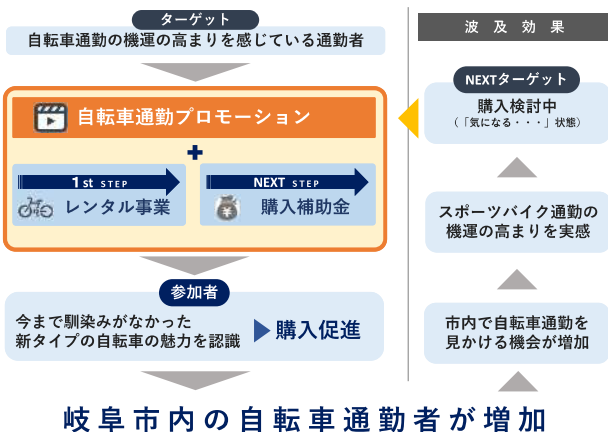
# AGENDA

と現状

## 3. 提案する施策

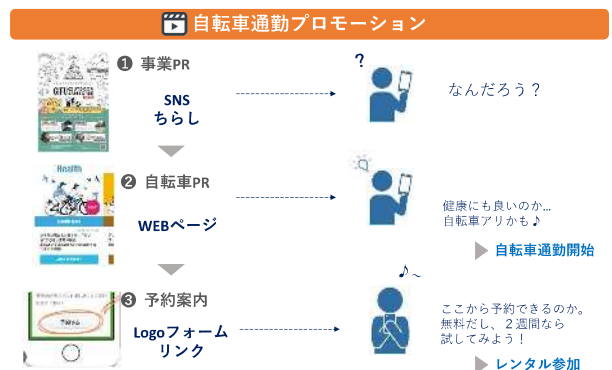
効果

## 5. 施策概要図



## 6. 事業概要（1／3）

### ターゲットが参加しやすい流れを創出



## ① 事業PR

## 6.事業概要（1／3）



### PR方法

#### SNS広告

- ・多くのユーザーにリーチ可能
- ・表示対象者のエリア、趣向を絞って発信  
(→岐阜市、20～60代、自転車・アウトドア)
- ・1週間1万円程度

#### 紙ちらし

- ・協力可能な飲食店・小売店等への設置
- ・取り組みの周知拡大、  
街を挙げた施策としての雰囲気づくり

#### 広報ぎふに添付（NEXT STEP）

方法：表紙への掲載、ちらし差し込み  
効果：市民全員に届けることができる

## ② 自転車PR ③ 予約案内

## 6.事業概要（1／3）

### WEBページ 構成イメージ



メインイメージ（表紙）

プロモーション動画

トピックス

自転車通勤のPR

- ・経済的
- ・環境的
- ・健康的

事業案内

- ・スポーツバイクレンタル  
サービス → 予約はこちら
- ・補助金申請 —COMING SOON—

## 6.事業概要（2／3）

### スポーツバイクレンタル事業（仮称）

### 1st STEP

目的・概要	自転車通勤に興味のある市内自動車等通勤者へスポーツバイクを貸出し、試乗機会を提供する。
対象者（条件）	16歳以上の市内居住者かつ、以下の条件を全て満たす者 ①市内もしくは隣接している市町村へ通勤している ②ヘルメットを所持している ③自転車保険に加入している ④自宅・職場において駐輪場を確保している ⑤下記の受取・返却が可能である
貸出期間	最大2週間
貸出場所	岐阜市役所およびメディアコスモス
貸出方法	LoGoフォームによる電子申請
利用料	無料
利用可能エリア	岐阜市及び岐阜市に隣接している市町村
受取・返却方法	下記場所にて、時間内に受取・返却 岐阜市役所本庁舎：開庁日の8時45分～17時
フィードバック	利用者アンケートを実施し、効果を検証（→アウトカム）

## 6.事業概要（3／3）

### 自転車購入促進補助事業（仮称）

### Next STEP

目的・概要	自転車通勤に興味のある市内自動車等通勤者へ自転車の購入補助を行い、普及促進する。
対象者	・16歳以上の市内居住者かつ、以下の条件を全て満たす者 ・市内もしくは隣接している市町村へ通勤・通学している者
条件	・市内の店舗で対象自転車を購入すること ・ヘルメットを所持していること ・新品の自転車であること ・防犯登録を行うこと ・TSマークを貼ること ・自転車損害賠償補償保険に加入すること
申請方法	LoGoフォームによる電子申請 【必要書類】 領収書、製造メーカー保証書、防犯登録書、損害賠償保険加入がわかるもの
補助額	1台上限 15,000円（20％まで）
フィードバック	購入後の利用者アンケートを実施し、効果を検証

## “人の興味を引く。”

ノウハウがないと難しい・・・

デザイン

動画

ちらし

写真

CM

Webサイト

コピーライト

SNS

プロモーションパートを専門家と連携





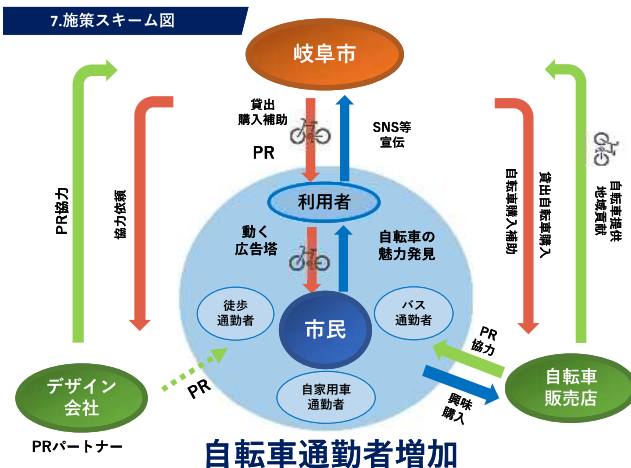
パンフレット（イメージ）



WEBサイト（イメージ）



7.施策スキーム図



8.事業スケジュール

岐阜市	事業1年目 (実施前)	<ul style="list-style-type: none"> <li>デザイン会社と業務委託</li> <li>自転車を購入</li> <li>レンタル体制を整える</li> </ul>
	事業始動	リリースの目安…秋(10月)ごろ
	事業1年目 (実施後)	<ul style="list-style-type: none"> <li>広告媒体公開</li> <li>レンタル事業開始(直営)</li> </ul>
	事業2年目 以降	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果等に応じてレンタル用自転車を増やす</li> <li>ギフライドなどと連携し、無人貸出</li> <li>効果等に応じて購入促進補助事業の体制検討、整備</li> </ul>
デザイン会社	事業1年目 (実施前)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体のコンセプト設計</li> <li>自転車通勤促進におけるネーミング、ロゴの作成</li> <li>フライヤーのデザイン作成</li> <li>webサイト、動画作成</li> <li>SNSに掲載</li> <li>事業の宣伝協力</li> </ul>
	事業1年目 (実施後)	<ul style="list-style-type: none"> <li>広告媒体効果検証等サポート</li> <li>広告媒体トピックス更新</li> </ul>
	事業2年目 以降	
	事業3年目 以降	

9.概算費用

項目(案)		概算額
1	プロモーション作成 (動画、ちらし、WEBサイトなど)	¥1,300,000
2	ちらし印刷	¥100,000
3	SNS広告費	¥80,000
4	自転車購入(¥50,000×10台)	¥500,000
合計		¥1,980,000

# AGENDA

と現状

る施策

## 4. 事業効果

### 10. 事業効果

#### ① 数値目標

自動車通勤者を約**151,343**人と仮定

岐阜市が従業地・通学地となる15歳以上の就業者及び通学者数  
221,911人（※1）

×  
岐阜市における代表交通手段分担率 68.2%（※2）

自動車通勤  
**1 割減**を目指す  
（約1万5000人）



出典（※1）：国勢調査（令和4年版岐阜市統計書）  
（※2）：第5回中京都市圏パーソントリップ調査報告書  
（※3）：令和4年度熊本県IXプロジェクト実証サポート事業

### 10. 事業効果

#### ② 評価方法

##### 利用者アンケート

レンタル事業が自転車交通に対するイメージアップに繋がったか調査  
（意識変容の調査）

##### 《設問例》

- ・自転車をどのような場面で使用されましたか。
- ・日常生活で自転車を利用してみたいと思うきっかけになりましたか。
- ・通勤で自転車を利用してみたいと思うきっかけになりましたか。
- Noの場合 ・何があれば通勤で利用したいと思いますか。

##### 市民意識調査

身の回りの自転車交通量が増えてきていると感じるか調査  
（行動変容の調査）

##### 《設問例》

- ・自転車交通量の多いまちだと感じますか。
- ・自転車で通行しやすいまちだと感じますか。
- ・通勤で主に利用する交通手段は何ですか。

##### 交通量調査

渋滞箇所について調査を行う

END



## グループ② 親子の集う新たな場所ニュープレイス



＜メンバー＞  
市民生活部 野田恵  
行政部 北川了太  
福祉部 西尾明泰  
上下水道事業部 朝日健介  
岐阜大学 松原心春



## ～社会的背景～

### 人口減少

＜0～14歳の人口予測＞

2021年	2040年	2060年
1500万人	1200万人	900万人

約3分の1  
減少

少子化の進展

令和4年版 少子化社会対策白書

### 一少子化の原因一

「子育てに対する負担感の増大」  
及び「経済的不安定の増大等」

「夫婦の出生力の低下」

## ～社会的背景～

### 若者の居場所・つながり

＜15歳～29歳の調査：平成28年＞



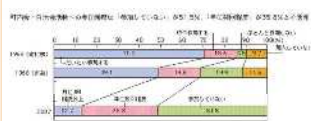
約80% 「自分の部屋」「家庭」が居場所  
約50% 「学校」「職場」「地域」「ネット」が居場所

人とのつながりが希薄に...  
居場所が少ない...

令和3年版「子ども・若者白書」

### 地域とのつながり

＜町内会・自治体活動の参加頻度＞



月に1回・年に1回 参加する人  
約86%→約48%

地域の人とのつながりの希薄化

地域のつながりの現状：平成22年版 情報通信白書

## ～岐阜市の現状～

### 少子化

約1.4  
(目安2.06)



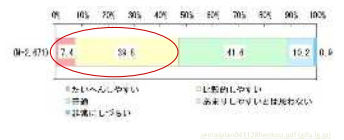
自主財源の減少

岐阜市の人口動態統計 出生統計 令和1年

### 子育てのしやすさ

約47%

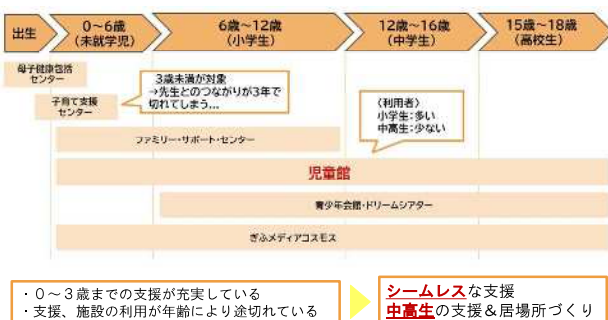
「子育てしやすい」と感じている！



子育て支援事業・施設  
が充実している

岐阜市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(2018年)

## ～各施設や支援が年代別に分かれており、繋ぎ目のない関係性が築きにくい～



## ～親の子育てによる精神面・肉体面の影響～

### ＜家庭における育児状況＞



子育てを行っている人は  
「母親」が56.4%  
↓  
母親の負担大

### ＜子育ては楽しいか＞



「つらいこともあるが楽しい」7割  
↓  
多くの人が子育ての  
楽しさや喜びを感じている

### ＜子どもを虐待している のではないかと思うこと＞



3割の親が子供への虐待を  
心配している  
(主な虐待内容：感情的な発言)

出典：岐阜市子ども・子育てに関するニーズ調査(2018年)

子育ては大変！誰かに助けてほしい！  
精神的な支えも欲しい...



## オール岐阜でつながりが途絶えない シームレスな子育て支援



### 〈現状〉

- 子育て支援施設が年齢別である  
→子供が育つごとに人間関係の再構築が必要
- 地域との関係の希薄化

### 〈理想〉

- つながりが途絶えない支援  
→安心して、支えてもらえる子育て
- 家庭だけではなく、地域で行う子育て

岐阜市で  
子育てしたい！



### 中高生の居場所

- 地域や社会と繋がる機会が少ない
- 身近な居場所が少ない

- 地域や社会と繋がる機会の提供
- 身近な気軽に足を運べる居場所の提供



岐阜市に居続けたい！

### ～求められるもの～

- 0歳～18歳までのシームレスな子育て支援
- 中高生への身近な居場所の提供
- 地域の人と共に子育てする仕組み

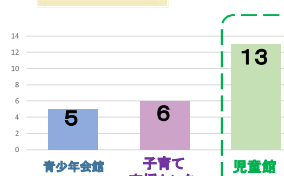


子育てを誰かに助けてもらえる場所・仕組みづくり

親子の集う新たな場所ニュープレイス

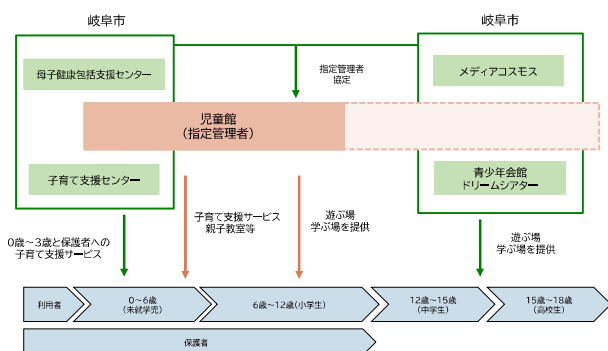
### ～岐阜市の現状の支援策～

#### 〈子育て支援施設〉

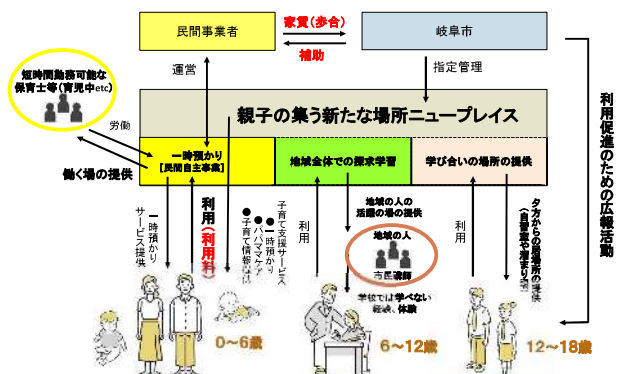


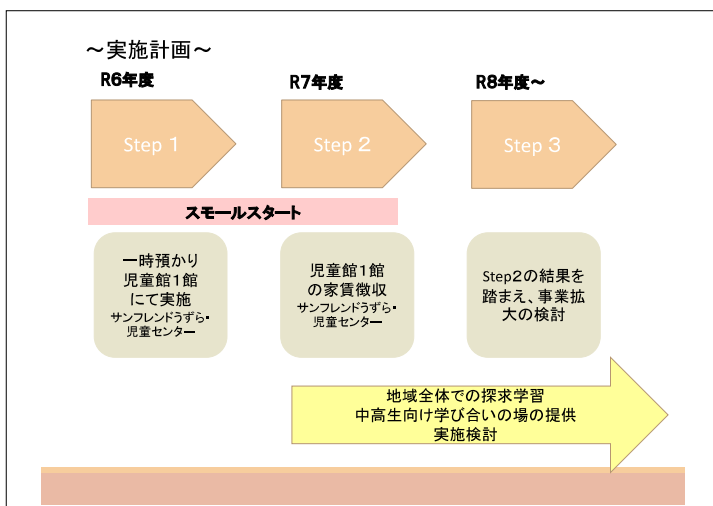
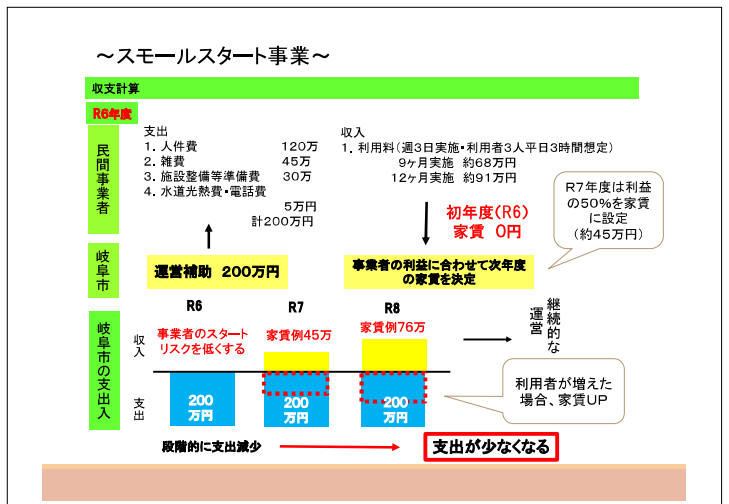
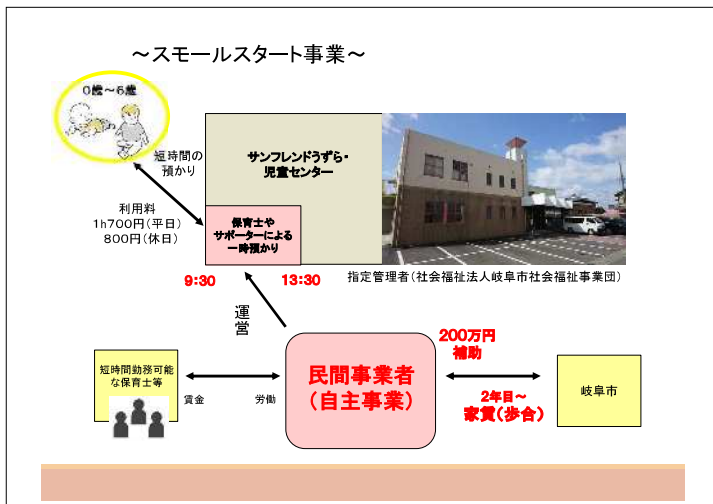
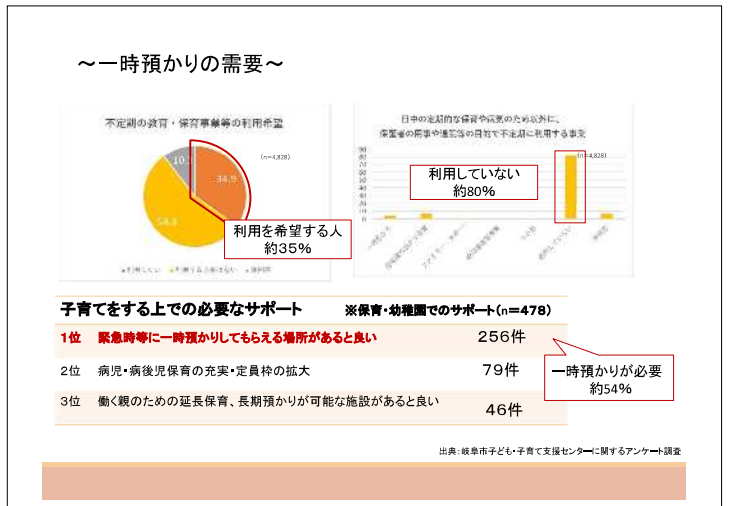
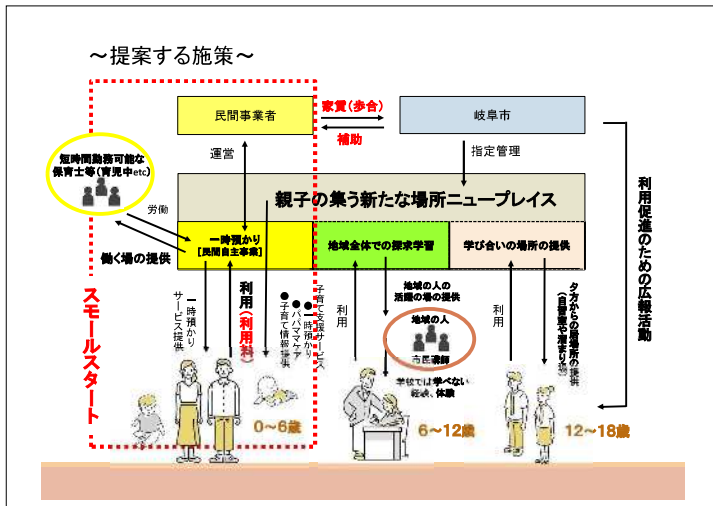
**児童館**＝対象は0歳から18歳  
身近にあり、気軽に行ける場所  
地域の中に子どもの新たな居場所をつくり、  
多様なコミュニティを生み出すことが可能

### ～岐阜市の現状～



### ～提案する施策～



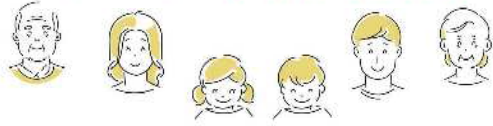


～ KPI評価の考察～

項目	方法	目標値
必要性	一時預かり利用者数	1ヶ月平均 50人以上
利用者満足度	利用者アンケート	満足度 6割以上
シームレスな支援	5年後の児童館利用者数	R4実績の 10,000人以上

～親子の集う新たな場所ニュープレイス～

オール岐阜でつながりの途絶えない  
シームレスな子育てを実現



「こどもファースト」を加速させ、親にとっても子どもにとっても  
より安心して育てやすいまちへ  
多様なコミュニティが育ち、交流を生み出すまちへ

ご清聴  
ありがとうございました



<メンバー>

市民生活部	野田 恵
行政部	北川了太
福祉部	西尾明泰
上下水道事業部	朝日健介
岐阜大学	松原心春





テーマ


「子育て世代 30代から運動習慣を身につけよう」

タイトル

「Let's 育エク」

グループ3

メンバー 和田 暁子 島 沙織 魚江 和矢  
原 佑輝 澁谷 歌乃 三島 弥大



### 1. 運動の実施状況について

①健康であるために必要とされる運動量  
⇒ 週2回以上、1回30分以上の運動が必要

1年以上継続している人の30代の割合  
男性 23.4% 女性13.3%

男女ともに30代の割合がもっとも少ない

年代別	男性	女性
10代	28.4%	17.9%
20代	26.4%	14.9%
30代	23.4%	13.3%
40代	25.3%	16.9%
50代	25.7%	21.2%
60代	33.2%	31.5%
70代	46.9%	43.0%

②運動不足について  
運動不足を感じている人の30代の割合 80.0%

30代から割合が増加している

年代別	割合
10代	72.4%
20代	74.2%
30代	80.0%
40代	80.4%
50代	79.9%
60代	75.5%
70代	67.0%

※出典 「R4スポーツの実施状況に関する世論調査」 スポーツ庁

### 2. 岐阜市の現状

①健康づくりのために日ごろの運動に取り組んでいるか  
取り組んでいる人の30代の割合 34.9%

「取り組んでいる」「どちらかと言えば取り組んでいる」と回答した割合

岐阜市においても30代の割合が少ない

年代別	割合
10代	67.3%
20代	47.3%
30代	34.9%
40代	36.4%
50代	41.8%
60代	49.2%
70代	57.4%

②自分の健康状態に満足していない人の割合  
満足していない人の30代の割合 男性 43.7% 女性39.8%

「満足していない」「あまり満足していない」と回答した割合

男女ともに30代の割合がもっとも高い

年代別	男性	女性
20代	17.0%	26.3%
30代	43.7%	39.8%
40代	28.0%	28.4%
50代	36.6%	38.1%
60代	25.0%	32.2%
70代	33.0%	27.0%

※出典 「R4市民意識調査」「R1健康基礎調査」岐阜市

### 3. なぜ運動の取り組み率が低いのか？

運動の阻害要因

1. 仕事や家事が忙しい (73.2%)
2. 子どもに手がかかるから (46.5%)
3. 面倒くさい (32.4%)
4. 仲間がいないから (16.9%)
5. お金に余裕がないから (9.9%)

育児 家事 仕事

運動に対する優先順位が低い

仕事、家事、育児などで運動する時間がないと感じている

「30代の子育て世代」は運動不足！

※出典 「岐阜市スポーツ推進計画2023-2032」岐阜市

### 4. 理想の状態はなにか？

すべての世代で運動習慣が身についている状態

①自己免疫力の向上

1年間運動を継続することで1.6倍に

医療費の削減

②メンタルヘルスの改善

1週間で2時間以上の運動で抑うつリスクが約半分に

うつ病の抑制

③生活習慣病の予防

運動習慣なし対ありで総死亡率2.4%の減少

健康寿命の増進

※出典 「過度な運動で免疫力向上」花王健康科学研究会  
「精神的健康の維持増進に関する研究」公益財団法人 明治安田厚生事業団  
「健康日本2.1」厚生労働省

### 5. 理想状態と現状の比較

理想 すべての世代で運動習慣が身についている状態

現状 「30代の子育て世代」は運動不足

30代の子育て世代が運動習慣を身につけるためには？

理想

【優先順位が低い人】  
①運動する必要性を知っている状態

【時間がない人】  
②運動する時間が確保できている状態

現状

運動不足による自分の状態を把握していない  
何をしようか分からない  
→運動を始めるきっかけがない

仕事、家事、育児で忙しい  
→運動する時間が確保できていない

## 6. 30代の子育て世代が運動習慣を身につけるための課題は？

### 課題

#### ①運動するきっかけづくり

⇒ 自分自身が運動することの  
必要性を知る（実感する）機会が必要



#### ②運動する時間の確保

⇒ 仕事、家事、育児で時間がない中、  
いかに時間を生み出すかが重要



## 7. 岐阜市の現状の支援策

岐阜市の現状の支援策を対象者の年代別に仕分けると

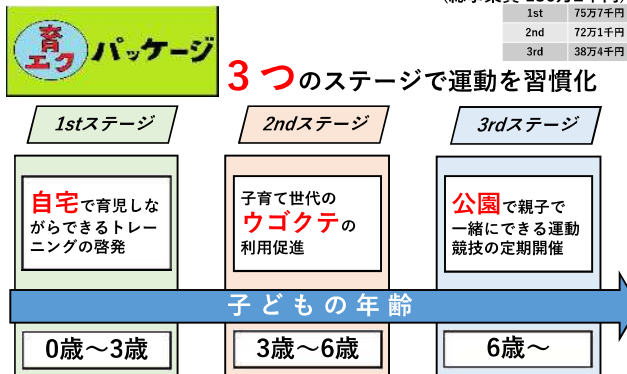
### 年代別事業一覧

年代	支援策
10代～20代	【スポーツスタートアップ事業】 【トップアスリート支援代償事業】 【アスリートスポーツフェスティバル事業】 【生涯スポーツ活動の充実支援事業】 【スポーツ振興の策】
30代（ターゲット）	【生涯スポーツ活動の充実支援事業】 【スポーツ振興の策】 【市民スポーツリレーランニング大会】
40代～	【生涯スポーツ活動の充実支援事業】 【スポーツ振興の策】 【市民スポーツリレーランニング大会】 【市民スポーツリレーランニング大会】 【市民スポーツリレーランニング大会】 【市民スポーツリレーランニング大会】 【市民スポーツリレーランニング大会】 【市民スポーツリレーランニング大会】 【市民スポーツリレーランニング大会】

「30代」をターゲットとする事業が少ない

## 8. 30代子育て世代が運動習慣を身につけるための施策

（総事業費 186万2千円）



### 1stステージ 自宅で育児しながらできるトレーニングの啓発

子どもがいると、外出することが難しい・・・

⇒ そんな人は自宅ですぐにできる運動を実施

育児しながらできるトレーニングの普及・啓発

- ・ 子重トレーニング（岐阜大学 春日晃章 教授 考案）や、寝かしつけストレッチなどをHPにて紹介
- ・ YouTubeでトレーニング動画を配信
- ・ 体力メンテナンス協会と協定を締結し、産後ケアのレッスンやイベントで実施



事業費	
報償費	50千円
運動用消耗品費	50千円
委託料	707千円
計	757千円



岐阜大学 春日晃章 教授 体力メンテナンス協会

### 2ndステージ 子育て世代のウゴクテの利用促進（利用率UP）

運動のきっかけづくり ⇒ ウゴクテで運動することを通して、運動の必要性を知って（実感して）もらう



ウゴクテは子育て世代が集まる場所  
ウゴクテと同一建物という利点を最大限生かす

事業費	
工事請負費	100千円
通信運搬費	192千円
委託費	429千円
計	721千円

連携①ツナグテの一時預かり機能を活用



ウェブカメラの設置

あずかルームとの併用をPR

連携②ツナグテ利用までの待ち時間を活用



最大2時間の待ち時間にウゴクテを案内

バランスボール等親子でできる運動を啓発

### 3rdステージ 公園で親子で一緒にできる運動競技の定期開催



事業費	
超過勤務手当	324千円
運動用消耗品費	50千円
のぼり旗	10千円
計	384千円

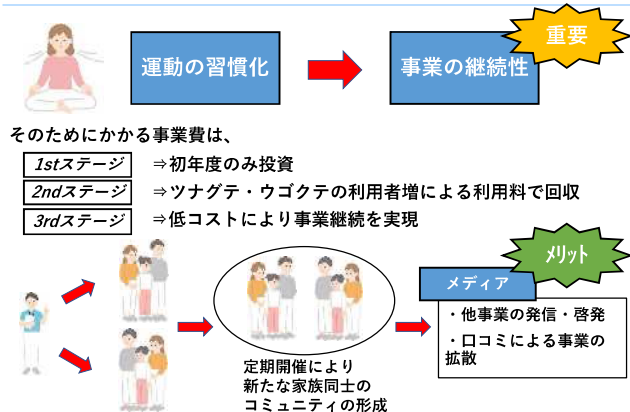
親子で公園に行くけど、子供が遊ぶのを見てるだけ・・・  
⇒ そんな人は公園で親子で一緒にできる運動に参加

ファミエク（親子で参加できる運動競技の休日に定期開催）

- ・ 月1回程度、長良公園またはファミリーパークで
- ・ 長縄とび、転がしドッジなど
- ・ 育エクトレーナー（市職員）が運動競技の実施をサポート
- ・ スタッフとして学生ボランティアを募集
- ・ 家族内、家族同士の交流を創出



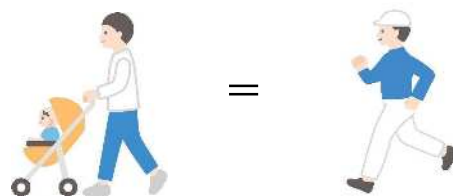
## 9. 財源から見る事業の継続性



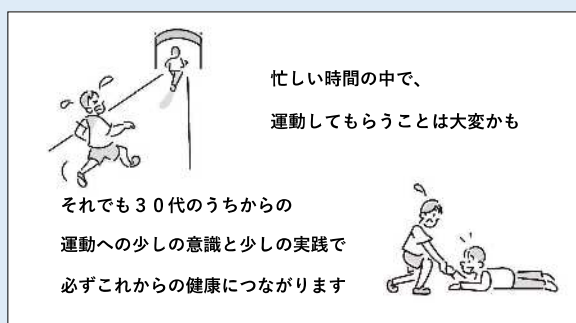
## 10. KPI評価

### 予測される施策の効果

KPI	目標値
30代の運動の取組率の増加	34.9%⇒40%
30代の健康状態に満足していない人の割合の減少	男女ともに20%の減

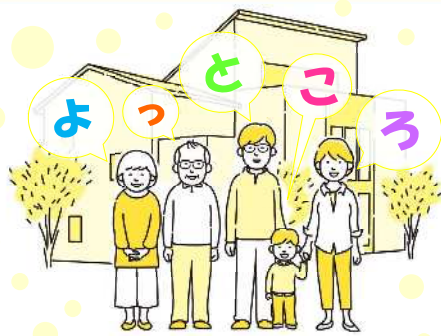


## 11. 最後に



みんなの健康のために行政から一歩踏み出しましょう！！

## テーマ 誰もが気軽に立ち寄ることができる居場所づくり



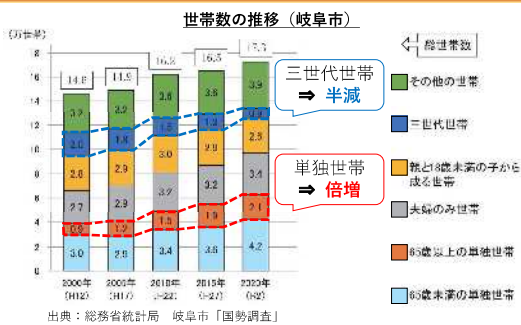
グループ④  
伊藤 岩田 大橋 大東 國井 佐藤

## 目次

- 1 岐阜市の現状と課題
- 2 テーマ設定の背景と理想状態
- 3 提案施策「よところ」
- 4 今後の展望/まとめ



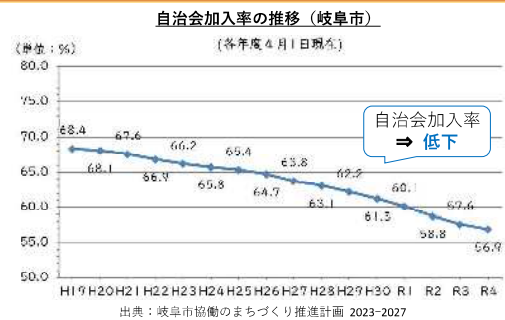
### 1. 岐阜市の現状と課題



世代間交流が希薄化していく（している）

1

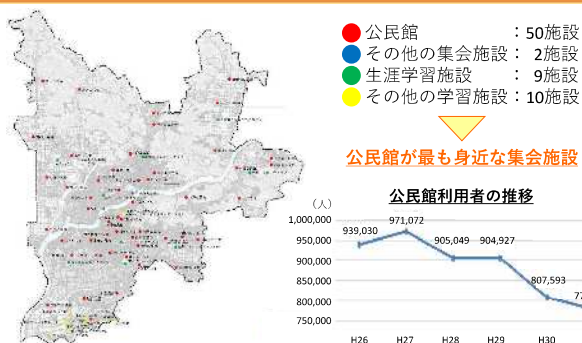
### 1. 岐阜市の現状と課題



地域交流の偏りや隔たりが柔軟な地域活動の妨げとなる

2

### 1. 岐阜市の現状と課題



市内の集会施設、生涯学習施設の配置  
出典：岐阜市公共施設等総合管理計画

利用者は5年間で約16万人減少

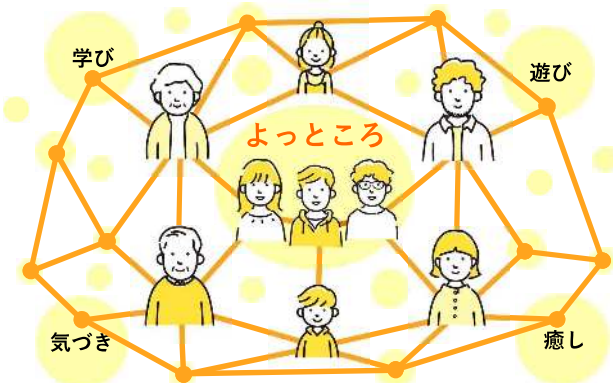
3

### 2. テーマ設定の背景



4

## 2. 理想状態



5

## 3. 提案施策「よところ」

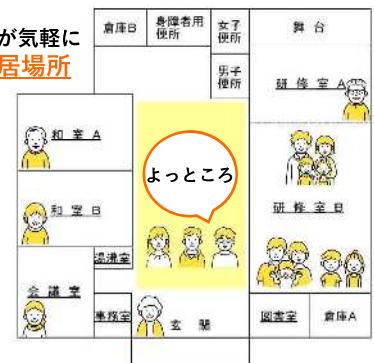
「よところ」とは

公民館を活用した誰もが気軽に立ち寄ることができる居場所



ロビー

公民館利用者が立ち寄るロビーを活用し、**よところ**を開設する



6

## 3. よところー(よところ実行委員会)の配置



	学生スタッフ	岐阜市の若手職員
対象者	地域に暮らす大学生・中高生	入庁1年目～3年目の職員(20代)
形態	ボランティア	ボランティア
人数	1地域 3名～10名	若干名
活動内容	地域のニーズを調査し、よところの運営を行う	学生スタッフの補助、関係各所との調整を行う

地域ニーズに沿った「よところ」を目指す

7

## 3. よところーの募集・育成

よところーの募集方法と活動の魅力

学生スタッフ⇒大学等で「よところー」募集のチラシを掲示  
SNS公式アカウントで募集

若手職員⇒庁内公募で希望者を募集



・公民館を起点とする人脈づくり ・広報誌で活動を表彰

よところーの育成

- ・勉強会を開催  
⇒有識者を講師として招き、コミュニティ形成に必要な知識、スキルを身につける
- ・他都市の住民自治による成功例を調査⇒現地にて体験学習を行う

8

## 3. 活動の例(地域版ナンジャモンジャ)



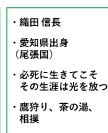
ナンジャモンジャ・シロ&ミドリ株式会社 すぐろくや

- ①謎生物が描かれたカードをめくる
- ②その人のセンスで特徴を捉えた名前を付け、全員で覚える
- ③再び同じ謎生物が描かれたカードがめくられたら、その名前をいち早く叫ぶ  
⇒最終的に枚数をより多く集めた人が勝ち!

地域住民の顔写真を撮影し、『地域版ナンジャモンジャ』を作成



表面



裏面

同じ地域に暮らす人を知ることができる

認知症予防

9

## 3. イベントの例(クッキングカフェ With 岐阜短生)

Before



隣接した小学校等の家庭科室

After



クッキングカフェ

「食と健康」の大切さを伝える  
健康⇒not only 身体, but also 心  
「食」を通じたコミュニケーションで身体と心の健康を保持



岐阜市立女子短期大学 健康栄養学科

地域住民に向けた料理講座を開催

皆で楽しく会話をしながら、準備、調理、食事、後片づけまでを行う  
食品の一部は、「よところ利用者」からの提供  
(例) 家庭菜園で育てた野菜や果物 など  
月1開催を想定

10



### 3. SNS公式アカウント開設とスマートロック導入

#### よっところを知るきっかけ

- ・自治会の回覧板でお知らせ
- ・広報ぎふでお知らせ
- ・**公民館のHP**でお知らせ

#### 受動的な広報活動



#### SNS公式アカウント開設 (タブレット支給)

#### 能動的な広報活動



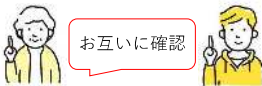
#### 公民館の管理体制の見直し

**現状**：公民館で鍵を管理

**理想**：公民館関係者で鍵を管理

#### スマートロックの導入

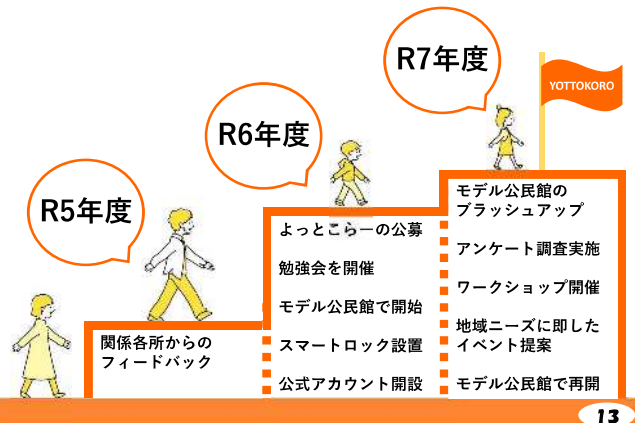
- ・自動で施錠（閉め忘れ防止）
- ・カギの履歴を確認
- ・合カギのシェア（最大20名）



避難所開設の効率化も可能

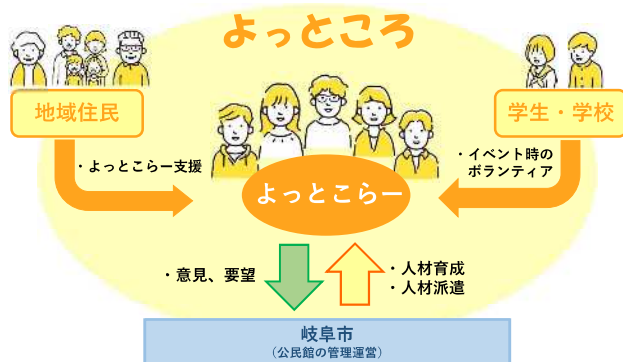
11

### 4. ロードマップ



13

### 4. スキーム図



12

### 4. スモールスタート 令和6年度 財源考案

#### 備品費

品目	単価 (円)	数量
スマートロック	20,000	1
タブレット端末	100,000	1

- ※1 机などの備品は公民館にある既存のものを活用する
- ※2 勉強会開催費、有識者による育成・助言費
- ※3 「地域版ナンジャモンジャ」など日常の活動のための費用
- ※4 トライアル期間中の3カ月間で「クッキングカフェ」などのイベントを計3回開催

項目	支出 (円)
備品費 ※1	120,000
通信費	30,000
よっところ一斉育成費※2	1,350,000
活動費 ※3	100,000
イベント開催費 ※4	300,000
予備費用	100,000
<b>合計</b>	<b>2,000,000</b>

14

### 4. KPI評価の考察

#### 令和7年度のKPI評価

よっところ利用者を対象にアンケート調査を実施。

#### 評価項目

- ・地域における『よっところ』認知度
- ・『よっところ』を居場所と感じているか
- ・利用のきっかけ
- ・交流の増減

翌年度以降に、評価項目で新規利用者数の増加率を測ることで、地域における交流が活発化しているかをみる。

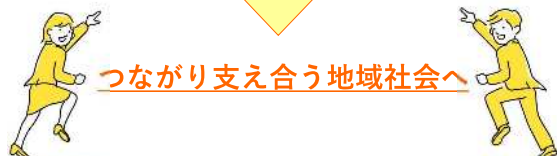


15

### 4. まとめ

公民館長、公民館主事が承諾し、  
よっところが集まった公民館で実証実験

よっところを希望する公民館に開設



16

**ご清聴ありがとうございました！**

